



学校だより 青い鳥

平成29年度1月号
さいたま市立上落合小学校
平成30年1月9日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/ E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



よい目標を立てること

校長 藤澤 太郎

新年あけましておめでとうございます。霜柱が白く光って、まるで新しい校庭に元気な子どもたちの歓声が響いています。年末に大輪が咲いた大川小の遅咲きのヒマワリは、種を丸々と膨らませ、今は福寿草の黄色に花心を引き継いでいるようです。3学期はまとめの学期となります。気持ちを新たに、生活を整えることからスタートして、1, 2学期の振り返りを十分にしながら、学期の終わりには、新しい学年、学校への具体的な希望をもってほしいと願っています。

さて、正月には、「一年の計は・・・」と言われることがあります。これは、「まず初めに計画を立て、事にあたること」を意味しているようです。その後、目指した通りに調子よく事が運べばよいのですが、大人も子どもも、実生活ではなかなかうまくいかないものです。頭の中では、だいたいの目安とか目標・指針のようなものはぼんやりと見えているのですが、具体的にとかしかりとかということになると大変です。つまり、目標や計画通りにならなかった場合、「望みが高すぎた!」とか、「やり方がよくなかった、」ということになり、自分自身に対して申し訳ないと思う気持ちが充満してくるからです。何かをするときに、「目標」は立てなければならぬものなのでしょうか? 目標は必要に応じて出てくるものがないと考える向きもありそうです。

目標には大小あると思います。個人が、達成可能な目標で客観的なものを立てるとなると、目標を立てるだけで時間がかかり、この時間がもったいないなんてことになってきます。先人たちも、そこまで精度の高い目標を立てましょう! とは言っていないのでは? とも考えます。また、例えば大きな建設物を建てるプロジェクトなどでは、何万人という人や何百という会社組織がかかわります。この場合、大目標「〇〇までに〇〇完成!」は、現場にしてみると大して意味のない目標です。現場的には、ソリューションを前面に出した動きのある気の利いた目標が求められます。いずれにしても、目標を立てる目的をはっきりさせたいところです。

子どもは、毎日、小さいですが目標を立てながら進んでいるのも事実です。授業では、単元の目標を意識しながら仲間と協力して問題解決にあたり、「できた～」とか「分かった～」とかなった時に、「やった～」という達成感や満足感を感じます。しかし、その時は、だいたい目標のことは頭から離れてしまっているようです。そのために、授業では「振り返りをしましょう!」ということで、いわゆる復習をして、今日何をやったかを確認して、そして次回への意欲を高めたり、次回の学習活動を模索・設定したりということを連続して行っています。

ところで、皆さんは趣味や遊ぶことなどにも目標を立てていますか? 先月号で、ある少年の話がありました。遊んでも遊んでも、「あ～楽しかった!」ということにならない少年の場合はどうしたら良いのでしょうか? この少年の場合、目標とも言えない一応の目安はもっていたようですが、行動(過程)の中で自分よがりの期待に気分が増幅されつつ、勝手に目標を変化させているということだと思います。つまり、楽しくする(楽しくしたい)ことが目標ということですね。

どうやら、誰もが見てよい目標を立てることは難しいことと言えそうですが、子どもの生活や学習の目標は、達成(成長)したことがはっきりわかるものや、家族や友だちが応援したくなる目標がよいのではないかと考えました。そして、生活や学習を進めていくうえで、やはり目標をもつことは大事だと思っています。よい目標とは、「明確な目標」ということですね。

これから冬本番になります。風邪などひかぬように、寒さに負けず元気に過ごしてほしいと願っています。3学期も引き続きよろしく願いいたします。

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく